

令和6年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																		専門分野	備考 (主な経歴)								
		水 全 般 理	計 画 策 定 の 流 域 水	水 善 質 改	水 利 用	湧 全 水 保	地 下 水	水 フ イ ン	地 域 振 興	貯 留 費	水 環 境	防 災 ・ 防 災	農 地 ・ 農 業	生 態 系	水 開 発 空	水 文 化	地 球 温 暖 化	発 達 ・ 及 啓 蒙	国 際 連 携			人 教 育 ・ 成 材 育	民 間 組 の 取 組	地 政 行 政	広 域 連 携	住 民 参 加			
風間 聡	東北大学大学院 工学研究科 教授	○	○					○		○	○		○					○		○						水文学、水工学、水資源工学	1995年東北大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)。筑波大学講師、タイ国アジア工科大学院助教授、京都大学防災研究所水資源環境研究センター客員教授等を経て、2010年より現職。専門は水文学、水工学、水資源工学。国土交通省最上川水系流域委員会委員長や文部科学省ユネスコ国内委員会委員などを歴任。著書に水文学(コロナ社)。		
笹川 みちる	特定非営利活動法人 雨水市民の会 理事																								○	雨水活用、環境教育、普及啓蒙、住民参加型活動コーディネーター	特定非営利活動法人雨水市民の会、雨水まちづくりサポート理事。東京大学教養学部文化人類学卒業、英国イーストアングリア大学開発学修士課程修了。NPOでの活動のほか、日本建築学会あまみず普及小委員会委員として雨水活用・水循環をテーマとした普及啓蒙活動に従事。市民向けのツール開発、水環境に関する啓蒙講座企画等に携わり、生活、アート、まちあるきといった多様な切り口で水循環の普及に取り組んでいる。		
指出 一正	株式会社ソトコト・ネットワーク 執行役員 ソトコト編集長																								○	メディア、SDGs、関係人口、移住・定住、地域づくり、まちづくり、情報発信、コミュニティデザイン、エリアリノベーション、環境教育、教育、福祉	『ソトコト』編集長。1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学科卒業。雑誌『Outdoor』編集部、『Rod and Reel』編集長を経て、現職。島根県「しまことアカデミー」メイン講師、静岡県「地域の商店」デザイン表彰審査委員長、和歌山県田辺市「たなこアカデミー」メイン講師、秋田県湯沢市「ゆきわローカルアカデミー」メイン講師、岡山県真庭市政策アドバイザー、富山県「くらしの国、富山」推進本部本部員、群馬県「群馬県過疎者会議」委員、上毛新聞「オビニオン21」委員をはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「わくわく地方生活実現会議」委員、内閣官房「水循環の推進に関する有識者会議」委員、環境省「SDGs人材育成研修事業検討委員会」委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「人材組織の育成・関係人口に関する検討会」委員、国土交通省「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」委員、総務省「過疎地域自立活性化優良事例表彰委員会」委員、農林水産省「新しい農村政策の在り方検討会」委員、UR都市機構URまちづくり支援専門家、内閣官房「ふるさと活性化支援チーム」委員、BS朝日「ハントタッチ SDGsはじめてます」監修、「大阪・関西万博 日本館」クリエイター。著書に「ぼくらは地方で幸せを見つける。」(ポプラ新書)。趣味はフライフィッシング。		
滝沢 智	東京大学大学院 工学系研究科 教授	○		○	○		○	○																		○	環境工学	1988年東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)。長岡技術科学大学、建設省土木研究所を経て、1992年東京大学工学部助教授、1997-1999年アジア工科大学院環境工学科准教授(派遣)を経て、2006年7月より現職。専門は都市水システム、水処理技術、地下水水質管理、開発途上国における水と衛生問題。新水道ビジョン策定検討会座長、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。	
武山 絵美	京都大学大学院 地球環境学 教授	○	○																						○	農業土木学、農村計画学	1998年京都大学大学院農学研究科修了、博士(農学)。ミュンヘン工科大学農学研究科等を経て、2003年愛媛大学農学部助手、08年同学准教授、17年同学教授。24年4月より現職。専門は農業土木学・農村計画学。食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会臨時委員、国土審議会水資源開発分科会吉野川部会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書に「災害対策の設計・計画手法―人と野生生物の共生を目指して(農村計画学のフロンティア)」(共著、農林統計出版)。		
辻村 真貴	筑波大学 生命環境系 教授	○	○			○	○																				水文学、地下水水文学、トレーサー水文学、環境動態解析、地下水ガバナンス、流域水循環	1993年筑波大学大学院博士課程地球科学研究科単位取得退学。博士(理学)。1995年愛知教育大学助手、2007年筑波大学准教授、2008年内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付調査員(併任)、2012年4月より現職。専門は水文学、地下水水文学。日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員、内閣官房水循環政策本部事務局流域水循環アドバイザー、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書(分担執筆)に「自然地理学」(ミネルヴァ書房)など。	
中村 晋一郎	名古屋大学 工学研究科 准教授	○	○		○			○																	○	水文学、水資源学	2008年東京大学大学院 工学系研究科 修士課程修了、博士(工学)。民間建設コンサルタントでの実務を経て、2010年東京大学 総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー)総括寄付講座 特任助教、13年同学生産技術研究所 特任助教、14年名古屋大学大学院 工学研究科 専任講師。2018年11月より現職。専門は国土デザイン学、水文学、水資源学。 水と流域の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究を行っている。そのほか市民団体「善福寺川を星川にカエル会(通称:善福蛙)」共同代表等を務め、水辺や健全な水循環の再生に向けた実践を行っている。		
古米 弘明	中央大学 研究開発機構 機構教授	○		○	○			○																			○	都市環境工学(下水道、都市雨水管理、水環境保全)	1984年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)。茨城大学工学部助教授、東京大学大学院工学系研究科助教授等を経て、1998年より現職。専門は水環境保全・制御、都市雨水管理、水質評価、厚生科学審議会委員、中央環境審議会委員、国土審議会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。主な著書に「水システム講義：持続可能な水利財に向けて」(共著、東京大学出版会)、「水辺のすこやかさ指標“みずしるべ”：身近な水環境を育むために」(編著、技報堂出版)、「森林の窒素飽和と流域管理」(編著、技報堂出版)など。日本水環境学会学術賞、日本水環境学会学賞、環境保全功労者表彰を受賞。

令和6年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																		専門分野	備考 (主な経歴)				
		水 循環 全般	計 画 策 定 の 流 域 水	水 質 改 善	水 利 用	湧 水 保 護	地 下 水	水 フ ィ ン	地 域 振 興	貯 留 ・ 減 量	水 環 境	防 災 ・ 減 災	農 地 ・ 農 業	生 態 系	水 開 発 空 間	水 文 化	地 球 温 暖 化	発 展 ・ 及 啓 蒙	国 際 連 携			人 教 育 ・ 成 材 育 成	民 間 取 組 の 地 域 行 動	広 域 連 携	住 民 参 加
吉富 友恭	東京学芸大学 環境教育研究センター 教授																							河川生物学、環境展示論	1998年東京水産大学大学院水産学研究所修士、博士(水産学)。科学技術振興事業団科学技術特別研究員、土本研究水循環研究グループ(自然共生研究センター)研究員を経て、2004年東京学芸大学環境教育実践施設助教授、2007年准教授。2018年環境教育研究センター教授。専門は河川生物学、環境展示論、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員を務める。著書に「魚のウロコのはなし」(成山堂)、「展示論」(共編著、雄山閣)、「環境の学習と観測にもとづいたグループプログラムの理論と実践」(共編著、古今書院)など。
渡辺 亮一	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授	○	○	○	○					○	○												○	応用生態工学、水工学、河川工学、水環境工学	1997年九州大学大学院博士課程修了、博士(工学)。福岡大学工学部准教授を経て2015年より現職。専門は応用生態工学、水工学、河川工学、水環境工学。国土交通省九州地方整備局九州河川技術懇談会委員、国土交通省うらのおある川づくり技術向上検討会委員などを歴任。最近では、有明海におけるフルポ酸鉄シリカ資材を用いた干潟再生に関する研究を行うとともに、都市域での水循環を再生する目的で、福岡大学に建設された仮設人工芝サッカー場および自宅における雨水貯留・浸透に関する研究などを行っている。また、地域住民と協働で樋井川における定期清掃活動なども行っている。
山村 寛	中央大学 理工学部 教授	○		○	○		○	○		○						○	○	○	○				○	水環境、水質変換技術、上下水道、サーキュラーエコノミー	2008年北海道大学大学院博士課程を早期修了。博士修了後、科学技術コミュニケーター養成ユニットで科学技術コミュニケーターの資格を取得。2009年から、旭化成に入社し、静岡県富士市で水処理膜を作る研究に従事。2012年に、中央大学理工学部に新学科「人間総合理工学」の設置に伴って、着任。2015年に准教授、2020年に教授に昇格し、現在に至る。その間、水分野の若手組織である、Japan young water professionalsにて共同代表を務めた他、世界水会議(IWA)でAsia-Pacificの運営委員で、産官学、国を超えた若手のエンカレッジと連携に従事した。2008年には、日本水環境学会にて、第2回博士研究奨励賞(オカルゴノ賞)を受賞した。2015年には、日本水環境学会にて、日本水環境学会論文奨励賞(廣瀬賞)を受賞。産業財産権(知財)は20件を超え、実用化した技術も複数保有する。いつでも、誰でも必要な水質を届けることをモットーに、膜技術を中心としたイノベーション研究に従事している。
蔵治 光一郎	東京大学大学院農学生命 科学研究科 教授	○	○			○	○			○	○							○	○	○	○	○	○	森林と水循環、森林と災害、水源林の管理	1989年東京大学農学部林学科卒、青年海外協力隊員としてマレーシア・サバ州森林局森林研究所で勤務。1996年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。東京大学農学部附属演習林千歳演習林、東京工業大学大学院総合理工学研究所、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林愛知演習林、生態水文学研究所で勤務し、2017年より現職。専門は森林水文学、森と水と人との関係。編著書『緑のダム科学 減災・森林・水循環』(築地書館)、『森の「恵み」は幻想か』(化学同人)、『「森と水」の関係を解き明かす』(全国林業改良普及協会)など。
辻谷 貴文	全日本水道 労働組合 書記次長	○			○					○	○						○						○	水道政策、水の労働現場、市民協働、地方行政 水リテラシー	大阪市水道局職員を経て、水道事業の運営形態問題や流域課題などを含む水道政策課題に取り組む。現場若手時代に経験した阪神淡路大震災の応急給水や復旧活動で、水道事業・公共サービスの重要性を再認識し、以来「蛇口の向こう・排水口の向こう」を市民・エンボユーザーと共有することをライフワークとする。現在は労働組合活動(全日本水道労働組合書記次長)や市民活動(きれいな水と水の守るを全国連絡会事務局長)など社会運動に取り組む傍ら、「水(上下水道)のリテラシー向上」を事業目的とする株式会社アクアサポーターズの運営を行っている。共著に「安易な民営化のつけはどこに〜先進国に広がる再公営化のうごき〜」などがある。
高嶋 洋	第一工科大学 工学部 自然環境 工学科 教授	○	○	○		○	○	○		○	○						○	○					○	社会地質学、水文地質学、地文学	茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。民間地質コンサルタントを経て千葉県野田市にて環境行政、特に地下水汚染問題や地盤沈下対策を中心に典型7公害、廃棄物、残土石問題等を23年間担当した。この間、環境省に出身。千葉県の技術講習講師を歴任。下水道や道路行政業務の経験も持つ。令和3年4月より現職。同年、地質科学を基盤とした地質汚染調査技術の普及および地質汚染問題の対応と地下水資源の活用を推進するNPO法人日本地質汚染審査機構の理事長に就任した。日本地質学会の理事を1期、社会地質学会幹事長、同学会編集委員、NPO法人では、現在、継続的に千葉県や茨城県内で行政と共に水循環シンポジウムを開催し、地域の団体との交流を通じ、具体的な地域の水循環に係る意識啓発と理解促進及び研究を推進している。
遠藤 崇浩	大阪公立大学 現代システム科学域 教授	○	○		○	○	○				○												○	地下水管理、水資源、水管理、環境政策、公共 政策	2002年慶応義塾大学大学院法学研究科修士、博士(法学)。筑波大学大学院生命環境科学研究科等を経て、2012年大阪府立大学(現大阪公立大学)現代システム科学域准教授、20年より現職。専門は地下水等を対象とした水管理政策などの環境政策学。長野県安曇野市水環境審議会会長、大阪狭山市水循環協議会会長、西条市地下水保全及び適正化利用審議会会長など、各地の水循環施策の推進に関する有識者会議構成員を務める。近年は、災害時における地下水利用(災害用井戸)の普及策に注力しており、大規模災害時の地下水利用等について記された「非常時地下水利用指針(案)」を公開。
中屋 眞司	信州大学 工学部 特任教授・名誉教授	○				○	○																	地下水水文学、水理地質学、トレーサー水文学	1992年岡山大学自然科学研究科生産開発科学専攻修了、博士(工学)。1999年より信州大学工学部助教授、2010年より同教授を経て、2021年より現職。専門は地下水水文学、地理地質学。日本各地、琉球列島やアフリカ・タンザニアの水文化学・水資源調査を行いつつ、長野市川合新田水源の取水方法等検討専門家会議議長、安曇野市地下水採取審査委員会委員、企業の健全な水循環の取組に関する有識者会議構成員などを務める。著書(分担執筆)に「地下水流動 モンスーンアジアの資源と循環」(共立出版)など。
榊原 厚一	信州大学 理学部理学科 助教 (先端領域融合研究群 山岳科学研究拠点 兼任)	○				○	○																	地下水水文学、トレーサー水文学、森林水文学、 環境動態解析	2018年筑波大学大学院生命環境科学研究科持続環境学専攻 修了、博士(環境学)。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て、2018年より現職。専門は地下水水文学、トレーサー水文学、森林水文学、環境動態解析。信州地方、原子力発電所事故の影響を受けた森林、半乾燥地(中国やタンザニア)などを中心に意欲的にフィールドで地下水・水流出・水質に関する調査・研究等を行うとともに、地方公共団体の地下水に関する調査・分析等についても多数支援等を実施。国際水文学協会(IAHS)・国際水文地質学会(IAH)の小委員会委員、IAHS 国際トレーサー委員会(ICT)委員を務める。

令和6年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																		専門分野	備考 (主な経歴)					
		水 全 般 理	計 画 策 定 の 流 域 水	水 善 質 改	水 利 用	湧 全 水 保	地 下 水	水 フ ィ ン	地 域 振 興	貯 留 費	水 理 境	防 災 ・ 減 災	農 地 ・ 農 業	生 態 系	水 開 発 空	水 文 化	地 球 温 暖 化	発 達 ・ 及 啓 蒙	国 際 連 携			人 教 育 ・ 成 材 育	取 組 の 民 間	地 域 行 動	広 域 連 携	住 民 参 加
吉田 武郎	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 上級研究員	○			○																				水文学 農業水文学	2004年東京農工大学大学院農学環境工学専攻修了。博士(農学)。農村工学研究所研究員、アリゾナ大学客員研究員を経て、現在、農業・食品産業技術総合研究機構上級研究員。専門は水文学、農業水文学、気候変動による水資源の変動に関する評価に加え、農業水利用と流域水循環の相互作用の理解について研究を進め、持続的な農業生産と水資源管理の両立に向けて活動。
内山 雄介	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○			○	○	○											○		河川工学 水循環、物質循環 総合治水、流域治水、流域対策	1999年3月東京工業大学修士課程修了。現在、日本工営株式会社本社流域マネジメント室室長。流域水循環マスタープラン、特定都市河川浸水被害対策法、流域別下水道整備総合計画などの検討業務に主に従事。また、2013～2018年には、法政大学デザイン工学科で「河川環境工学(2年生)」の授業を担当。2020年より、①講演会等を実施し、流域水マネジメントの考え方や取り組み方を普及する活動、②流域水循環計画策定自治体と連携し、誘える取組の共有や隘路事項等を把握する活動、③計画未策定自治体に対して、計画策定の実務的サポートをする活動を行う、一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとして活動。
上原 浩	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○				○														水環境、水循環・物質循環 水質保全(河川、湖沼、ダム)、利水、気候変動	2000年3月広島大学大学院工学研究科修士課程修了。現在、パシフィックコンサルタンツ株式会社国土基盤事業本部河川部流域計画室技術課長。流域水循環計画、水域全般での水質保全、河川環境保全、利水・低水・定常流量検討、及び気候変動影響・適応策などの検討業務に従事。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。
名本 伸介	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○	○	○	○	○	○			○	○	○													河川工学 水循環、水環境 利水計画、低水管理	2005年3月東京工業大学修士課程修了。現在、株式会社東京建設コンサルタント東京本社水管理本部本部長。河川計画分野において利水計画、低水管理計画、水循環、水環境などの検討業務に主に従事。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。
石井 邦宙	一般社団法人 流域水管理研究所 流域水マネジメント普及プロモーター	○									○														流域水マネジメント(情報の利用と運用)	1996年3月九州大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻修士課程修了。現在、アジア航測株式会社社会基盤システム開発センター副センター長。空間情報技術を専門とし、防災、環境、社会インフラ管理などの幅広い分野で、空間情報の取得、分析、活用に関する検討業務に従事した経験を持つ。2020年からの一般社団法人流域水管理研究所の同流域水マネジメント普及プロモーターとしての活動については同上。

令和6年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支援分野																				備考 (流域水循環計画の概要)				
	水循環全般	流域の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組		地域行政	広域連携	住民参加	その他
秦野市 環境産業部 環境共生課 (谷 芳生)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	環境影響評価、自然公園、緑地保全、野生鳥獣等、生物多様性、森林保護、林業振興、里地里山里川、再生可能エネルギー
大野市 暮らし環境部 環境・水循環課 (谷口 英幸)		○			○	○																			大野市水循環基本計画 (令和3年2月公表) (1)「第六次大野市総合計画」の将来像『人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち』を実現していくため、各種個別計画における水に関する施策と整合を図り、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために策定した計画。 (2)大野市は、九頭竜川の最上流に位置することから、きれいで豊富な水を下流に送ることを重要な役割と位置付け、最上流部に住む者の責務を果たすべく、流域マネジメントに関する取組を推進。
安曇野市 市民生活部 環境課 (百瀬 正幸)	○	○			○	○			○	○			○				○		○	○		○	○		安曇野市水環境基本計画及び安曇野市水環境行動計画(令和4年3月公表) (1)計画の概要 松本盆地の最下流に位置し、豊富な湧水の恩恵を享受している安曇野市における地下水資源の保全に関する計画。環境省による名水百選選抜総選挙において「観光部門」「景観部門」の両部門で2冠を獲得した 地下水の質と量の保全に関する取組。 (2)計画の特徴 地下水保全の取組を進めるため、信州大学と連携し、地下水の見える化や将来像の予測について科学的裏付けを整理し、費用負担ルールなどの合意形成等を推進。 (3)改定のポイント 水道水源の100%を地下水に依存する安曇野市において、市民、団体等における自主的な水環境保全活動を登録する制度を設けて改正。
熊本県 環境生活部 環境局 環境立県推進課 (北之園健憲、山本裕典、原口靖史、尻成憲佑、増永妃佳璃)		○		○		○			○														○	○	熊本県地域地下水総合安全管理計画、第3期行動計画 (令和2年1月公表) (1)水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本地域(熊本市を含む周辺11市町村)において地下水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)特殊な地質構造により、一般的な水田の5倍の浸透力を持つ白川中流域における湛水事業などの地域の実情に沿った取組を推進。 (3)管理計画策定時と比較して地下水位や湧水量が改善傾向にあることから、第2期行動計画の考え方を継承し、効果の高い施策・事業の着実な推進と更なる施策展開の検討等を実施。
熊本市 環境局 環境推進部 (永田 努)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第3次熊本市地下水保全プラン(令和2年12月公表) (1)計画の概要 水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本市において地下水をメイン課題とした具体的な行動計画。 (2)計画の特徴 熊本市の地下水保全活動は「平成20年日本水大賞グランプリ」、「国連「生命の水」最優秀賞(2013年)」を受賞した国際的にも評価された取組。
豊田市 上下水道局 企画課 (相内 香穂)										○							○								水環境共働ビジョン～地域が支える流域の水循環～(平成29年4月公表) (1)計画の概要 平成17年における市町村合併により、矢作川の上流域の大部分を占める豊田市における水環境をメインとした総合的な計画 (2)計画の特徴 市内を「水源・涵養域」、「湧出・水利用域」、「流出域」の3つに分割し、地域ごとに現状と課題を整理し取組を推進。

令和6年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支援分野																				備考 (流域水循環計画の概要)				
	水循環全般	流域の水循環計画	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組		地域行政	広域連携	住民参加	その他
西条市 環境部環境政策課		○				○											○						○		西条市地下水保全管理計画(令和2年12月公表) (1)計画の概要 西条市にとって不可欠な水資源であり、「うちめき」や湧水を活用した水環境とそれを織りなす文化を形成する「地域の宝物」でもある地下水の水量・水質を保全するための施策を推進する計画。 (2)計画の特徴 先進的・継続的に行われてきた地下水調査を踏まえ、健全な水循環を実現するため、市民の共有財産としての性質を持つ地下水を「地域公水」と位置付け、市民・事業者と行政が一体となって「うちめき文化」の継承と発展に資する管理のあり方を提案。
仙台市 建設局百年の杜推進部百年の杜推進課 (庄司 明浩)																						○			広瀬川創生プラン(令和2年12月公表) (1)本計画は、「杜の都・仙台」のシンボルであり、市民の誇りである広瀬川を後世に引き継いでいくべき市民共有の財産として再認識し、将来にわたって保全していくとともに、新たな魅力の創出を図るためのアクションプランとして策定。 (2)市民・NPO・行政が実施する事業を集約・体系化し、各主体の自発的な取組の推進を図るため、協働手法や各主体に期待される役割分担を個別具体的に明示。 ※令和3年3月に中間見直しを行い、推進体制を下記のとおり見直した。 なお、令和6年度にはプランの改定を予定している。
さいたま市 環境局環境共生部環境対策課 (田中 孝幸)		○								○													○		第2次さいたま市環境基本計画別冊 水と生きものプラン(令和3年7月公表) (1)一層の都市機能の集約が見込まれる一方で、見沼田圃などの貴重な自然資源を有するさいたま市の水環境の課題に対し、生物多様性の課題と一体化して取り組む、総合的な計画。 (2)さいたま市水環境ネットワーク、水辺のサポーター等の市民団体や事業者との協働により水循環に関する取組を推進。
八王子市 水循環部水環境整備課 (山田 啓樹)	○	○			○			○	○					○										○	八王子市水循環計画(令和2年3月公表) (1)計画の概要 みどりや水の豊かな水循環機能を再生し、恵まれた環境を次世代に引き継ぐため、自然と共生するまちづくりに向けた水環境の課題に対応するための総合的な計画。 (2)計画の特徴 “人と水との良き環をつくり 次世代へ水の恵みをつなげていく”を基本理念に「環境」「利水」「治水」の3視点のバランスをとりながら魅力のあるまちづくりに取り組む「八王子・水のまちづくり」を基本的考え方として、健全な水循環系の再生を推進。
滋賀県 理事員 (三和 伸彦)	○	○	○							○							○					○	○		ローカルSDGsの策定 「琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期) <令和3年3月策定> (1) 国民的資産である琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全・再生を図るため、「琵琶湖と人との共生」を基調とし、森・川・里・湖のつながりを意識しつつ、自然の恵みを持続的に活用する環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築を目指す計画 (2) 「水質の汚濁の防止および改善」、「水源のかん養」、「生態系の保全および再生」、「景観の整備および保全」、「産業の振興」の5つの施策を琵琶湖の保全・再生のため推進 (3) 琵琶湖保全再生施策を総合的かつ効果的に推進するため、前計画で取り組んできた施策を引き続き継続し、さらに気候変動の影響やマイクロプラスチック等の近年の琵琶湖の状況を踏まえて改定したもの
相模原市 水みどり環境課 (関 峻也)																						○			第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略(R2.3策定) (1)計画の概要 市民一人一人が、みどりや水、生物多様性の重要性についての理解を深め、環境に配慮したライフスタイルを実践し、市民、事業者、行政等多様な主体間の連携・協働による取組を進めることで、「自然と人が共生するまち相模原」の実現を目指すもの。 (2)計画の特徴 相模原市の西側は丹沢大山国定公園を中心に豊かな自然が広がり、東側は相模川沿いに都市化が進展。本計画では、このような地理的特徴を踏まえ、市の西側を「水資源保全ゾーン」、東側を「都市緑化ゾーン」に設定し、それぞれ水源の保全・再生や都市部の緑化等を推進。